

## 鶴崎市史人物篇

一九八

鶴崎市出身久羅木儀一郎氏の著、昭和三十二年十一月三十日鶴崎市役所発行、A5判クロース装、全五一八頁、挿入写真四十八葉、予約頒売価五〇〇円。

本書は昭和十二年十一月鶴崎町役場から発行された同氏著「鶴崎町史」上巻につゞく下巻の一部門として、夙に編纂を予定されたものであるが、その後鶴崎町の隣村合併が二次に亘つて行われ、去る昭和二十九年三月三十一日鶴崎市となつた為め、編纂内容も次第に増加し、遂に予定計画では下巻の一部門であつたのが、書名の如き一卷となつて出るようになり、市の地域は昭和三十年四月一日現在によつたと同氏の叙文にある。

登載人数約二百、古くは鎌倉時代より最近は昭和二十八年の物故者に及んでいる。最も古きは高田鍛冶の鼻祖で豊後の名刀匠と聞える紀新太夫行平である。以下大友時代の人物としては松岡長興寺の開山要翁、森町専想寺の開祖天然、大友宗麟の使僧寿元、鶴崎城主吉岡宗敏、吉岡鑑興、吉岡妙林、高城にいた久我三休、葛城にいた仏郎機工渡辺宗寛、キリシタンの大物オランダ人・タンシユエー等がある。藩政時代においては儒者に池辺茂庵、木岐正範、秋山玉山、三浦梅園の詞友富田昌英、後藤宏直、門弟脇蘭室、八坂子玉、池辺子昌、毛利太玄、梅園の長子黄鶴の後を嗣いだ三浦惟厚、その他周易の大家佐藤貞吉、宗教学者としては松岡出身の増穂残口、鶴崎福正寺の桂潭、詩家には松岡浄雲寺の忍梁、小中島の藤沢杏璞、僧侶には大梁、恢天、愚谿、義白、大年、虎関、蘭谷、俳人には君山、月躬、朝翠、呉石、蘭什、画家には手島君山、足立雲山、橋本鶯谷、風流人には後藤瓢舎、松尾箕山、池辺多一坊等がある。さらに明治以降の人物としては約九十名掲載され、実に多士済々の観がある。

而して本書は一面においては人物伝の史料集たるを期しているので、これを通じて鶴崎市の歴史、経済、文化、生活、産業等の一端をも窺い得るものがある。これ本書の一特色とも見るべきであらう。(高山虔三)